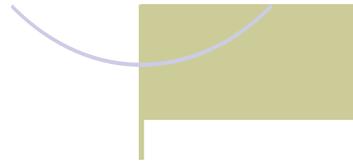




薬剤師が行う患者アセスメントは次のステージへ ～薬局での簡易血液検査と患者教育～



薬局での簡易血液検査、そして患者へのフィードバックを学ぶ

日本薬剤師研修センター
研修認定3単位申請予定

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会研修企画委員会

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会事務局
(井手口・管野)
〒290-0193 千葉県市原市うるい
ど南4-1 帝京平成大学薬学部 井
手口研究室内

TEL 0436-74-5119
FAX 0436-74-6794
Email : info@pcoken.jp

【対象】

薬剤師(薬局、ドラッグストア、病院)、SP参加型研修に関心のある薬剤師・大学教員・企業の研修担当者など

【定員】

36名 定員に達し次第申し込みを締め切らせていただきます。

【参加費】

学会員:3000円、非学会員:6000円

【申込】

当学会のホームページよりお申し込みをお願いします。

<http://www.pcoken.jp/>

P-Co学会

検索

日時:2012.7.22(日)10:30～16:30

場所:北里研究所病院3階セミナー室A・B

【特別講演】

「HbA1c値・血糖値測定の意味とセルフケアへの活用、薬剤師が参加する糖尿病診断アクセス革命でみてきたこと(仮)」

矢作直也 先生(筑波大学大学院内分泌代謝・糖尿病内科准教授)

診断機器メーカーによる機器展示もあります

薬学教育や薬剤師生涯学習において、フィジカルアセスメントやバイタルサインチェックの習得を目的とした研修が急速に増加してきています。しかしながら、いずれも技能訓練に主眼が置かれており、アセスメント結果やチェックした値をどのように患者にフィードバックするかという肝心のコミュニケーション部分は訓練されていません。検査値という“数値”を単に伝えるだけでなく、伝えられた患者(顧客)がその“数値”の意味するところを十分に理解し、適切な受診勧奨やセルフケアという行動変容につなげる役割が求められています。そこで本研修では、得られたアセスメント結果をどのようにフィードバックするかという医療コミュニケーション技能の向上を目的とし、SC(模擬顧客)・SP(模擬患者)参加型学習を行います。